

## プロフィール

### 桑名龍吾 (くわな りゅうご)

昭和37年11月16日生(1962年)高知市生まれ

#### 【略歴】

昭和60年 國學院大學法学部 卒業  
昭和60年 JA高知経済連(現全農高知県本部)入会  
平成8年 衆議院議員 中谷 元 秘書  
平成13年 国務大臣中谷防衛庁長官秘書官  
平成19年 高知県議会議員(一期目)  
平成21年 自由民主党高知県支部連合会政務調査会長(～24年)  
平成23年 高知県議会議員(二期目)  
平成23年 高知県 監査委員  
平成24年 高知県議会 産業経済委員会 委員長  
平成25年 高知県議会 議会運営委員長  
平成25年 高知県 監査委員  
平成26年 高知県議会 副議長  
平成27年 高知県議会議員(三期目)  
平成27年 自由民主党高知県支部連合会幹事長(～30年)  
平成28年 高知県議会 予算委員会 委員長  
平成28年 高知県議会 総務委員会 委員長

#### 【現職】

自由民主党高知市南支部支部長  
自由民主党高知県高知市第五支部支部長  
高知県議会 議会運営委員会  
高知県議会 商工農林水産委員会

#### 【議員連盟】

高知県議会防衛議員連盟 会長  
高知県議会商店街振興議員連盟 会長  
自民党高知県議会神道議員連盟 会長  
高知県議会日韓友好促進議員連盟 幹事長  
全国地震津波対策を考える都道府県議会議員連盟 幹事長



## 慰霊碑の維持管理について（平成29年2月本会議質問）

（桑名）

次に、慰霊碑の維持管理について質問をいたします。

日清戦争から太平洋戦争までに3万6,074人の高知県人のとうとい命が失われました。これらの戦没者を追悼するために、遺族会の調べでは県内に160カ所の慰霊碑が現存しております。忠霊塔などの慰霊碑は、戦前戦中においては国威発揚や戦意高揚の一手段として利用されたものもありますが、多くは戦後になって遺族会や戦友会が中心となって建立をしております。また、慰霊碑やその敷地の所有者は多くが自治体であり、維持管理は各地の遺族会や自治会が行っているのが現状です。しかし、最近では、市町村からの維持管理についての財政的な支援をいただきありがたいが、維持管理する遺族の高齢化で慰霊碑の維持が困難または限界であるとの声を多くの遺族から聞くようになりました。戦後72年の今、戦争遺児の最年少は72歳であります。遺族会会員の平均年齢も76歳。遺児はふえることはないので、平均年齢は上がる一方です。5年先、10年先には、誰が中心になって慰霊碑を管理していくのか、真剣に考えなければならないときが来ております。さて、現代における慰霊碑は戦没者を慰霊顕彰し平和への思いのシンボルであるとともに、地域が戦争とどう向き合ってきたのかという歴史を示す非常に貴重な文化遺産であると考えます。これらを後世に受け継いでいくことが、戦没者のとうとい犠牲のもと平和に暮らしている我々の義務であり責任であろうと思います。知事は、県内に現存する忠霊塔などの慰霊碑をどのように捉えているのか、御所見をお聞きいたします。

（知事）

県内に現存する忠霊塔などの慰霊碑をどのように捉えているのかのお尋ねがございました。

終戦から72年目を迎え、戦後に生まれた世代が大半を占め、ややもすれば戦没者の方々への思いや戦争の悲惨さ、平和のとうとさというものの意識が薄れかねない中、戦争の教訓を風化させることなく、平和のとうとさ、平和を愛する心を次の世代に伝えていくことは我々に課された使命であると考えております。このため県といたしましても、毎年11月1日に開催しております県戦没者追悼式におきましては、平成25年からは県内の中学生による平和の作文朗読や平成27年からは戦没者のひ孫世代の方に献花もしていただくなど、戦没者を追悼し平和を祈念する思いが若い世代にも受け継がれていくよう取り組んでいるところであります。こうした中で、県内各地の慰霊碑につきましては、お話にもありましたように建立時等のさまざまな経緯はありますものの、現在に

においては戦没者の方々に思いをはせ、平和への決意を強くするための象徴としての意義があるものと思っております。戦没者を追悼し、平和を祈念する思いを次の世代に受け継いでいくためにも、地域に今後も慰霊碑があり続けることが重要であると考えております。今後、管理される方の高齢化が進む中、慰霊碑を戦没者を追悼し平和を祈念するためのものとしてどのように地域で保存し顕彰していくかについて検討していく必要があるものと考えているところでございます。

(桑名)

また、慰霊碑の現在の維持管理状況について地域福祉部長にお聞きをいたします。

(地域福祉部長)

慰霊碑の現在の維持管理状況についてお尋ねがございました。

県内にある慰霊碑の管理状況につきましては、平成26年3月に国からの依頼により、民間で建立した戦没者慰霊碑の状況を調査したところでございますが、今回改めて民間建立だけでなく公共団体が建立したものも含めまして市町村を通じて確認いたしましたところ、県内で242基が存在し、その主な管理者といたしましては111基が県の遺族会やその支部、46基が市町村、地元の自治会と神社がそれぞれ18基を管理しており、そのほとんどは良好な管理状況でございました。また、慰霊碑の清掃につきましても、全体の9割を超える225基につきまして遺族会支部や自治会の皆様などにより年1回以上の清掃が行われている状況でございます。知事からもお答えいたしましたように、慰霊碑は平和への思いを次の世代に受け継いでいくために重要なものでございますので、実際に管理をされている方の状況などをより詳細に把握してまいります。

(桑名)

さて今後、慰霊碑をどのような形で維持管理をしていくのか、具体的な対策を考えていかなければなりません。また、このような慰霊碑については、教育的価値もあるものと考えます。現在、多くの小中学生が平和に関する学習として広島や長崎を訪れていますが、その前に身近にある慰霊碑等を題材にして、地域における過去の戦争を知り学ぶことが必要ではないかと考えます。二度と戦争という過ちを繰り返してはならないことを慰霊碑が児童生徒たちに語ってくれるものと信じております。沖縄にある高知県の慰霊碑土佐の塔は、地元の八重瀬町の具志頭小学校、新城小学校、具志頭中学校の児童生徒の奉仕によりその清掃活動が行われ、平和に関する学習にも生かされていると聞いており

ます。そこで、私は一つの考えとして、本県においても児童生徒が地域の慰霊碑の清掃や地域の歴史学習を行い、それを道徳教育における伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度を育てる授業と関連させることができないかと考えますが、教育長の御所見をお聞きいたします。

(教育長)

最後に、児童生徒が地域の慰霊碑の清掃や地域の歴史学習を行い、それを道徳教育における伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度を育てる授業と関連させることができないかとのお尋ねがございました。戦没者に哀悼の意を表し再び戦争の惨禍を繰り返さないという決意が込められた慰霊碑は、平和を希求する心を育てたり、また地域の歴史を学ぶという点において、その教育的価値は大きいものがあると考えます。現在、小中学校においては、地域の歴史や文化を学ぶ学習について、社会科や総合的な学習において自分たちの住んでいる地域の歴史を調べたり地域の伝統や文化を受け継いできた人々の生き方に実際に触れたりすることを行っており、さらに中学校では特別活動の中で地域の清掃活動や地域の奉仕的行事を行っております。そのような中において、地域の戦没者慰霊祭等に生徒会として参加し、地域の歴史や平和について学習している学校もあるところですが、慰霊碑にかかわる学習やボランティア活動としての清掃を実施する学校については現在のところ承知をしておりません。ただ、さきに述べましたように、慰霊碑には教育的価値もあり、また平成30年度から実施される特別の教科道徳においてはさまざまな体験活動を道徳の学習と関連させることの効果や重要性も述べられているところでございます、こういったことから、今後慰霊碑を生かした教育活動について市町村教育委員会とも話をしてまいりたいと思います。

